

札幌学院大学

コラボレーションセンター年報

Collaboration Center

創刊号

2015-2016



Collaboration Center 開設記念特別講演会

15年後の社会に備える 高校生達のための「進路づくり」と高大接続

イキイキ

の可視化

コラボレーションセンターは札幌学院大学の「イキイキの可視化」を目指す施設です。札幌学院大学の学生は4年間の学習を通して様々な資格を取得したりするだけでなく、課外活動でも様々な成果をあげています。課外活動には、体育系・文化系のサークルだけでなく、学生国際交流委員会などでの活動も含まれます。活動に参加している学生以外にもこのような生き生きした活動を可視化し、札幌学院大学が楽しい空間であることを大学にいる全ての人に示すのがコラボレーションセンターの役割です。

2015年2月に正式オープンして1年が過ぎました。1年の間にどの部屋でも様々な活動が行われてきました。SPACE2を使ったゼミナールや各種打合せ、SPACE3を使った講義、Entranceを使ったEnglish Loungeなど。学習や課外活動で生き生きと活躍する学生の姿を可視化することに成功したと思います。

コラボレーションセンターのスペースはSPACE1(PC Room)以外は全て多目的スペースです。様々な用途に使うことができます。スタッフも使い方を提案していきませんが、皆さんからも使い方を提案していただきたいと思います。コラボレーションセンターは可能性を秘めた空間です。

学生発案プロジェクトも進行中です。2015年度は三つのプロジェクトが採択され、情報環境を改善するためのアプリケーションの開発、音声認識を使った学習支援の研究、松山大学との交流促進が追求されました。学生発案プロジェクトは2016年度以降も継続する予定です。是非多様なプロジェクトを提案していただきたいと思います。

2015年8月1日、開設記念特別講演会を、SPACE3で開催しました。

この講演会ではNPO法人NEWENTRYフェロー(当時/現高大接続事業部ディレクター兼法人理事)の倉部史記氏をお招きし、「15年後の社会に備える高校生達のための『進路づくり』と高大接続」と題した講演を行った。

演題にもある15年後の社会は現代とは大幅に異なる社会になることは予測されるものの、具体的にどのような社会になるかはわからない。また、2020年から実施される入試改革によりこれまでの偏差値を重視した大学選びとは異なる進路指導が必要になるという見通しが示された。また、オープンキャンパスが高校の教員から「知りたいことがわからないお祭り」と評されていることなど、大学関係者にはショッキングな事実も紹介された。こうした状況を踏まえて、倉部氏がディレクターを務めるWEEKDAY CAMPUS VISIT (WCVA)という取り組みが紹介された。WCVAは通常の講義やゼミに高校生を参加させる企画である。この企画は高校生や教員のニーズに合わせるものになっていくと同時に、大学側にとっても出張講義やオープンキャンパスに比べて負担が少なく、しかも常日頃の教育活動を高校生に示すことができる。「こんな大学なら学んでみたい」と高校生に具体的に考えさせることができる企画である。

教育改善はなかなか入試広報に効果がないという意見をしばしば聞く。しかし、それは教育改善の成果を高校生に示すことができていないからであり、WCVAは問題解決の糸口になり得る。高大連携のあり方について考えるものにとってもいい刺激を与える講演となった模様で、講演終了後は予定時間を超えて質疑応答があった。



講師 倉部史記 氏



← 当日の様子



2016年2月6日には、開設1周年記念として、大学の7つの建物を使用した「謎解きゲーム」を開催しました。地域の小学生や、親子連れ、謎解きの情報サイトを見てお申し込みいただいた謎解き好きな方々にも参加いただき、盛大に終わることができました。終了後のアンケートでは、「むずかしかったけど、とても楽しかった」「なんとか脱出できてよかったです!楽しかった!」という感想も頂きました。参加者の皆さんに満足していただき、学生スタッフも今後の活動の励みになったのではないかと思います。



開設1周年記念 謎解きゲーム



コラボレーションセンター長 佐々木 冠
(経営学部経営学科 教授)

可能性を秘めた空間

ENTRANCE

エントランス



オープニングセレモニー
(2015年2月4日開催)



【テープカット】(左から)
・井上俊彌 理事長
・学生代表 片岡佑人 さん
・学生代表 佐々木勇太 さん
・鶴丸俊明 学長



← オープニングセレモニー司会の
山川裕子さん(人文学部臨床心理学科1年:当時)



学生代表挨拶の佐々木勇太さん →
(人文学部学生自治会執行委員長:当時)

2015年2月4日、エントランスで開催されたオープニングセレモニーにより、Collaboration Centerはスタート致しました。当日は、人文学部臨床心理学科1年(当時)の山川裕子さんの司会により、オープニングセレモニーが執り行われました。鶴丸俊明学長挨拶、学生代表の佐々木勇太さん(人文学部人間科学科3年:当時)の挨拶、佐々木冠コラボレーションセンター長によるセンター紹介の後、在学生、教職員、工事関係者等が見守る中、テープカットが行われ、Collaboration Centerの完成を祝いました。



↑ English Loungeの様子

← ↑
ALL SGU ENGLISH SPEECH CONTEST

各学科ごとに代表者を選び(準決勝)選ばれた各学科の代表者が集まって、ナンバーワンを決めるコンテストです。



【札幌学院大学×釜石マグネットアートプロジェクト】

東日本大震災で被災した釜石高校の生徒、寺崎幸季さんが「仮設住宅に愛着をもってもらいたい」と始めた「マグネットアートプロジェクト」。山本純教養ゼミナールも、このプロジェクトに参加することになり、学生や教職員へ参加を募り、125個のマグネットをおくりました。



エントランスに設置されている2台のデジタルサイネージ(電子看板)では、Collaboration Center関連の情報や大学の最新情報などを配信しています。

SPACE1 PC ROOM

スペースワン



↑ SPACE1が混雑していた場合、他のPC教室へ移動できるように、電子計算機センターと連携して、PC教室の使用状況一覧表を毎週掲示しています。



← SPACE1のiMacのモニターが綺麗なのは、定期的に学生スタッフが清掃しているからなんです!!

平日は、Collaboration Centerの開放時間である8:30から21:30まで使用できるため、多くの学生が利用しています。壁の大部分がガラス張りとなっており、本学屋内のメインストリートである2階廊下から施設内が見えるため、夜間でも学生の姿が確認できます。これにより、夜間の学内の印象も変わったかもしれないです。また、キャンパスの中心に位置するエントランスでは、大型モニターを使ってのプレゼンテーションが可能であり、「発表の場」としても定着しているようです。



緑

色の壁が印象的なこの部屋には、iMac15台とモノクロプリンター1台、カラープリンター1台を配置し、事前・事後学修で利用できるようにしています。

SPACE1の使用手引き

- 印刷の注意事項
 - カラー印刷は1人年間30枚以内が目安。
 - カラー印刷は「C202PRO1_Color」を選択。
 - 用紙切れは Collaboration Center SPACE2相談カウンターまで。
- A4サイズ以外の用紙の入手先
 - 館1階の電子計算機センター窓口へ。
 - A1・A2の印刷はSPACE2相談カウンターにて予約。
- 退室の際の注意事項
 - USBメモリの抜き忘れにご注意!
 - 印刷した用紙はきちんと取りましょう。
 - 使用後はきちんと整理整頓!

※SPACE1のPCIに空きがない場合はエントランスの掲示板で空きPC教室を確認。
お互いに気持ちよく利用しましょう!

SPACE2 PROJECT LOUNGE

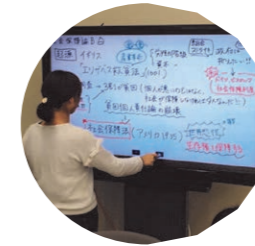
スペースツー



← SPACE2のテーブルは色々な形に組み合わせることができます。



学生スタッフが勤務し、Collaboration Centerに関する利用サポートなどの相談カウンターもSPACE2内にあります。SPACE2のテーブル予約や大判プリンタの利用申請などもこの相談カウンターで学生スタッフが対応します。



← 授業以外にも大型モニタ (BIGPAD) を使用することができます。自主的な勉強会で大型モニタ (BIGPAD) を使用している光景もみることができました。

【学内アルバイト情報の集約と発信】

大学が募集を行うものや、教職員が募集または紹介する学内外でのアルバイト情報を集約・発信しています。学内アルバイト情報はCollaboration Center SPACE2の相談カウンター上のファイルのほか、情報ポータルキャビネットでも情報を閲覧することが可能になっています。



SPACE2を **活用** した授業

手前のPCが設置されているテーブルでは人間科学科の「専門ゼミナールA (木戸ゼミ)」 → 施設中央のテーブルではこども発達学科の「子ども発達学基礎ゼミナールA (新国ゼミ)」



この空間は、実践的な学び (PBL) を効率的に進めるための場です。この1年間は、正課教育のみならず、サークル活動のミーティング、自主的な勉強会の開催、各種プロジェクトの活動場所として利用されました。また、一つの空間で2つの講義が行われたというCollaboration Centerのこの空間ならではのメリットも感じています。

← 大型モニタ (BIGPAD) の電子ホワイトボード機能の使用例。書き込んだデータをPDFファイルやJPEG画像ファイルとして保存することができます



SPACE2は、発表資料の準備やプレゼンテーションの練習をしているゼミなどのグループにより活用されています。コラボレーションセンターでは、プレゼンテーションの準備や練習をしている利用者向けとして、SPACE2の相談カウンター横のラックに関連書籍を用意しました。

- ・『図解 テレビに学ぶ 中学生にもわかるように伝える技術』
- ・『直感に刺さるプレゼンテーション』
- ・『伝わるデザインの基本 よい資料を作るためのレイアウトのルール』



↑ 「SCAN(北海道学生研究会)」が主催する「合同研究発表会」の発表準備をする経済学部佐々木ゼミ。連日、Collaboration Centerの閉室時間である21:30まで熱心に取り組んでいました。

↑ 人文科学部の専門科目「裁判心理学」(担当教員: 森 直久教授) では、SPACE2内貸出用のノートパソコンのほか、電子計算機センターで貸し出しを行っているiPadを活用するなどして、調べ物をしながらのグループワークが行われていました。

SPACE3

スペーススリー



← 学会など多くの行事で使用されるため、案内掲示を製作し、設置（エントランス）

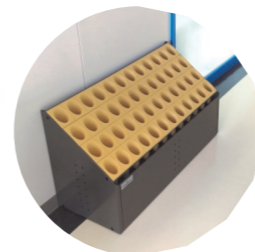


← 教室内のAV機器の使用法の要点をまとめた「クイックマニュアル」を作成



→ 節電を啓発する
掲示を壁に設置

通常の教室とは異なり、
机などに傘を立てかける
ことができないため廊下
に傘立てを設置



この空間は、協調的な学びの過程を通じて学生のコミュニケーションや創造性を引き出し、学生自らが主体的に知を構成することを促す場です。そのため、グループ学習のための椅子（テーブル付き）、ICTを活用した教育法改善を図るための機器を配備しています。

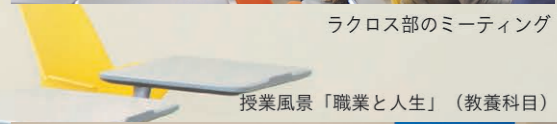
例えば、授業や演習、就職セミナー、学生が主催する学習会など多様な目的で活用可能です。電子黒板やマルチメディアなどを充実させたアクティブラーニング環境によって、協調的な学びの過程を通じたコミュニケーション能力の向上や課題解決能力の開発などが期待できます。



教室後方のスクリーン兼ホワイトボードを使用



ラクロス部のミーティング



授業風景「職業と人生」（教養科目）



授業風景「英語音声学A」（英語英米文学科）



授業風景「人権論」（法律学科）



教室後方のスペースを利用





← 先輩の誕生日をお祝いするためのサプライズパーティの準備 (左)
クリスマスにケーキを囲んで (中)
SGU cofficeでゼミの話し合い (右上)



第39回日本アカデミー賞で最優秀監督賞を受賞された是枝裕和監督(「海街diary」)も、教養科目「映像文化」公開講座の際に、SGU cofficeにお立ち寄りいただきました。(2016.01.30)

SGU coffice

エスジーユー コフィス



← 窓側のカウンターテーブルも多くの学生で賑わっています。

学生の多様な学修ニーズに対応し、授業の空き時間にも立ち寄ることができる場所として、カフェをイメージさせる空間を整備しました。多様なスタイルの椅子やテーブルを配置し、個人学修とグループ学修が適度に融合した、活気あふれるスペースです。



← Collaboration Center全体への要望や感想を集約するため、「利用者の声」回収BOXを設置。学生スタッフからの回答も行いました。

マガジンラックには、教職員からの寄贈による書籍が並んでいます。課外活動が制作した冊子も配架しており、配架希望はSPACE2の相談カウンターにて受付しています。



主催

プロジェクト

①

コラボレーションセンターでは、中期計画において「すべての学生が有意義な学生生活を送れるようにするために、学生生活への不適應を解消し、イキイキと活躍できる『居場所』の提供」を掲げています。

2015年度事業計画では、(1)学内関係機関との連携による学生生活上の不安を解消、学生生活適應のための企画の実施、(2)課外活動応援などの帰属意識を高める企画の実施、(3)学生が交流する企画、の3つをコラボレーションセンター主催プロジェクトとして実施すべく、学生スタッフを含むコラボレーションセンター運営委員会で検討・実施しました。

SGU Halloween Party



SPACE3でのゲーム大会 ↓ ↓ プレゼンテーションをする留学生



2015年10月30日には、「SGU Halloween Party 2015」を開催しました。本学学生、海外からの留学生、お隣の北翔大学の学生、地域の皆様、教職員、あわせて120名ほどの来場がありました。企画の運営には、学生スタッフのほか、学生国際交流委員会のメンバーが加わり、これらメンバーは前日までの間に、文京台、大麻地区に約1,000枚ものビラ配りによる広報活動も展開しました。本プロジェクトは、ハロウィーンという季節的なイベントを通して、様々な人と関わり垣根を越え、親交を深めることを目的として開催いたしました。

諸活動紹介動画の募集と

入学式（ウエルカムアワー）での上映

文化系・体育系サークルの紹介や、学生国際交流委員会、学生FD組織など、学生が主体的に取り組む諸活動を学生達自らが動画CMとして作成し、コラボレーションセンターに提出してもらいました。

提出された動画は、エンタランスのデジタルサイネージ（電子看板）で上映しました。また、入学式後半の「ウエルカムアワー」のように札幌学院大学へでは、これらの動画を上映し、新入生と保護者のかたに本学の諸活動の取り組みの一部をいただきました。



Collaboration Center
入学式などで新入生向けに上映する
クラブ・サークルや学内諸活動の紹介動画（1分）を募集します

応募要項

【応募資格】本学の学生・教職員
【動画の内容】クラブ・サークルや学内諸活動、オープンキャンパススタッフ、学生FD組織等の紹介
【動画の長さ】1分間
【動画の形式】WMV、AVI、MPEG、MP4、MOVのいずれか
※スマートフォン等で撮影したもので構いません。
【提出】3月9日（月）から3月18日（木） いずれも9:00~17:00の間
記録メディア（USB、CD、DVD等）に保存し、下の提出用紙と一緒に Collaboration Center SPACE 2の職員カウンターに提出してください。

【提出動画の公開】
● 提出された動画は、入学式のみで上映されます。
（応募多数の場合は、Collaboration Centerのデジタルサイネージのみで上映することとなります。）
● Collaboration Center エントランスのデジタルサイネージで上映されます。
● 大学の公式サイトなど本学の広報活動等で使用することとなります。
● なお、上記のいずれの場においても、無断に複製して、BGMや一部を転載することはありません。
【動画作成および提出上の注意】
● クラブ・サークルなどのグループの代表として応募する場合は、そのグループの責任者（主幹・部長など）や動画に写っている人物等の了承を得るようになさってください。
● 著作権や肖像権が侵害されている場合、再提出を求めたり、上映を行わないことがあります。
【問い合わせ先】 Collaboration Center SPACE 2 職員カウンター

クラブ・サークルや学内諸活動の紹介動画 提出用紙

クラブ・サークル名	グループ名	代表者氏名	代表者印
（代表者）学号			
動画のファイル名			

雑飾りの展示



学生および海外からの留学生が、季節の行事に触れる機会を提供したいとの思いから、学内（D・E館2階）に雑飾りを展示いたしました。

雑飾りを飾る時期としては一般的に2月中旬頃といわれていますが、「日本語教育・文化体験プログラム」等で留学生が本学に滞在している期間に、日本の文化を紹介するため、1月末より展示を開始いたしました。

学生からは「上から2段目が三人官女で、五人囃子が・・・」というような雑飾りを話題にした話し声が聞こえていました。

次年度以降は、雑飾りの展示だけではなく、学内で季節を感じる行事をコラボレーションセンターとして開催したいと考えております。



↑ 雑飾りを寄贈いただいた 佐々木さん御夫妻と鶴丸学長

← 飾り付けをする 学生スタッフ →

主催 プロジェクト ②

コラボレーションセンター

『正課内外の多様な「学び」を学生に促す企画』として、「屋台カフェ運営プロジェクト」を実施しました。

本プロジェクトは、英語英米文学科の3年生が中心となり、屋台の製作や提供品の調達、営業準備の作業や、店での接客など、授業外のこのプロジェクトに関わり、学ぶことが多かったのではないのでしょうか。



提供する飲料を試飲するプロジェクトメンバーの学生 ←

オープンにむけ、何度も打合せを重ねました →



このプロジェクトで使用した屋台は、コラボレーションセンターに改装される前のC館の教室で使用していた教卓を学生がリメイクしたものです。

プロジェクトに関わった学生達は、100円ショップやホームセンターを巡り、限られた予算のなかで店舗となる屋台を製作しました。



カフェ運営プロジェクト

屋台

卒業フォトコンテスト

Collaboration Centerで、学位記授与式の待ち時間を写真を見ながら過ごしていただけるよう学位記授与式にあわせて「卒業フォトコンテスト」を開催しました。



← タイトル「マオウご満悦」



タイトル → 「マイ回、ユキサキを相談して旅をタカ、タカ、タカッと楽しむ仲良し3人組！」



↓ 大学祭の様子 ↑



→ オープンキャンパスで謎解きにチャレンジする高校生

謎解きゲームプロジェクト

コラボレーションセンターでは、大学祭やオープンキャンパスにおいて、「謎解き」というゲームを通じて、コラボレーションセンターのPRや、学生同士の交流の機会を提供してきました。

2015年9月2日の事務局職員夏期一斉研修では、その「謎解き」の運営の経験に基づき、アイスブレイクの時間（1時間）を学生スタッフが担当しました。

研修の一部分だけかもしれませんが、学生が職員研修に関わったというのは、画期的な出来事ではないでしょうか。



← 司会をする学生スタッフ

校歌 ミュージックビデオ制作

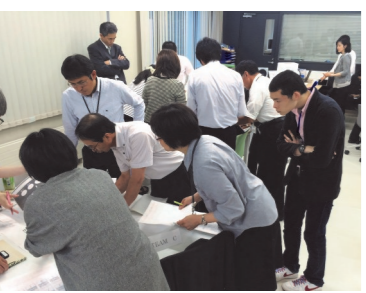
学生スタッフにより、校歌のミュージックビデオを制作しました。

この校歌ミュージックビデオの制作にあたっては、撮影場所の検討から、撮影、動画編集まで、すべて学生スタッフにより行われました。構内の日常風景を背景に、歌詞も表示されます。

今後、エンタランスのデジタルサイネージ（電子掲示板）で定期的には上映するほか、本学のYouTubeチャンネルでも配信しています。



学生スタッフが事務局夏期研修のアイスブレイクを担当



LINE スタンプ制作プロジェクト

在学生や卒業生の本学への帰属意識を高めるツールとして活用されることを期待するとともに、流行のLINEスタンプの制作という話題性も期待し、本学オリジナルのLINEのスタンプを制作・提供（販売）するというプロジェクトが開始しました。

学生スタッフとイラストが得意な学生を中心にスタンプ製作を行いました。

2016年1月13日より、LINEストア「クリエイターズスタンプ」で販売しています。



↑ 制作したスタンプの一部（スタンプは全40種類）

学生発案プロジェクト

「学生発案プロジェクト」は、大学生活でやってみたいこと、日ごろ考えているアイデアや、熱い想いに、最高50万円を支援するプロジェクト支援事業です。

2015年度は3つのプロジェクトが採択され、活動を行いました。各プロジェクトは情報発信サイトを立ち上げて、日々の活動状況などを配信することが義務づけられています。

【抜 粋】

2015年6月12日

コラボレーションセンター運営委員会

札幌学院大学 学生発案プロジェクト 募集要項

- 目的**
本学の目的（学則第1条「北海道の産業の発展及び北海道の社会文化並びに道民の福祉の向上に貢献し得る人材を育成することを目的とする。」）、理念（「自律」、「人権」、「共生」、「協働」）及び札幌文科大学の建学の精神（「学の自由」、「独創的研鑽」、「個性の尊重」）に合致する学生が中心になって構想、計画する学生発案のプロジェクトを支援する。
- 企画提案**
本事業の目的に資する内容のプロジェクトについて、申請書に必要事項を記入の上、別に定める期日までにコラボレーションセンター（以下、「センター」とする。）長に提出すること。
- 対象となる企画**
対象となるプロジェクトは、本事業の目的に合致する本学学生の自主的な企画とする。ただし、次のいずれかに該当するプロジェクトは、対象外とする。
(1) 営利を目的とするもの
(2) 特定の個人、特定の宗教団体、特定の政治団体に利するもの
(3) 法令、条例等に違反するもの
(4) その他公序良俗に反するもの
- 経費**
プロジェクトの運営・実施にあたり、必要と認められる経費は、原則50万円を上限として申請ができます。申請の際には、見積書や金額のわかるものを申請書に添付する必要があります。
- 審査方法**
提出された申請について、審査基準をもとにセンターで審査を行います。審査は、申請書の記載内容および面談（プレゼンテーション）により行います。
(面談にはプロジェクトメンバー全員の参加を条件とします。)
- 審査基準**

審査項目	審査基準
1. 適確性	目的に合致するテーマか。
2. 適切性	大学の予算を活用して行う取り組みとして適切か。
3. 教育効果	どのような知識・技能が身につくか。
4. 効果性	地域等の課題解決や活性化に効果があるか。
5. 自主性	学生が自ら企画し主体的に実施する事業か。
6. 実現性	計画が具体的に実現可能な事業内容となっているか。
7. 公益性	事業の効果が特定の者に限定されず公益性があるか。
8. 地域性	地域や市民との関わりがあるかどうか。
9. 費用妥当性	事業の内容、規模に合った予算になっているか。
10. 将来性	事業効果が一過性ではなく、将来的な波及が期待できるか。



プロジェクト審査会
審査会は、プロジェクトメンバーからのプレゼンテーション（10分間）と審査員からの質疑応答（20分間）でおこなわれます。10分間のプレゼンテーションタイムでは、各プロジェクトのメンバーからプロジェクトへの熱い想いが語られました。
なお、審査員はコラボレーションセンター1所員の教員5名と学生スタッフ代表3名が務めました。

各プロジェクトには、部室などのきまった活動場所が与えられるわけではありませんので、そのため、各プロジェクトが使用できるロッカーをSPACE2横の廊下に設置しています。



国内協定校

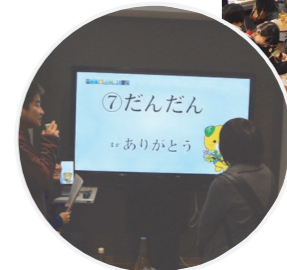
2015年度
採択

「松山大学」との学生交流促進プロジェクト

【概要】国内協定校の松山大学を訪問し、お互いの大学や地域の魅力等について、プレゼンテーションを行い、お互いに国内留学について考えるきっかけ作りを行う。松山大学への訪問後は、遠征内容の報告や松山大学や四国地方の紹介をCollaboration Centerなどで行う。

【プロジェクト報告】参加学生の感想から（抜粋）

今回のプロジェクトで四国、松山に行っているいろいろな人に出会い、交流したことで北海道にいただけでは絶対に知りえなかったことを多く知ることができて世界が広がった。こういったプロジェクトを来年度も続けて、学外交流や留学などで後輩たちには私たちのように世界を広げて様々な経験をしてほしいと感じた。
このプロジェクトによって国内留学を検討してくれる生徒が増えたことは私たちの目標であった国内留学を知ってもらい、留学生を増やすということが達成できたので、自分にとっての自信につながると感じた。
【採択金額290,745円／執行金額290,745円（自己負担分は除く）】



2015年度
採択

音声認識を利用した情報保障プロジェクト

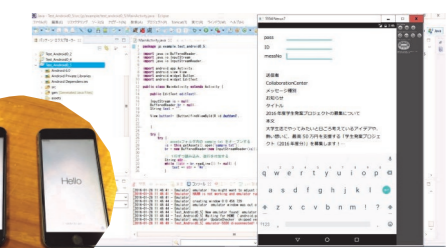
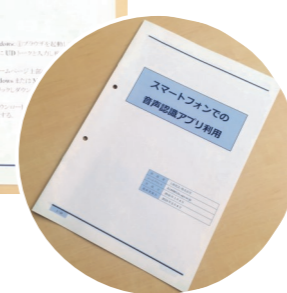


← プロジェクトで検証を行った音声認識ソフトウェア「UDトーク」の学内における導入をアシストするマニュアルを製作。
↓

【概要】現在、学内において聴覚障がいを持つ学生に対して、ノートテイクとパソコンテイクによる情報保障をおこなっているが、テイクを行う支援学生のスキルも必要であり、支援学生の養成も課題となっている。本プロジェクトでは、パソコンやスマートフォンなどの音声認識機能による情報保障を学内でできるような設備と運用の確立を目指す。

【プロジェクト報告】

今年度の活動では、音声認識を活用したテイク（音声テイク）が実用可能であることを検証した。プロジェクト内で購入したMacBook及び有線・無線のマイクを使用し、①低スペックPCと高性能PC②有線マイクと無線マイクの比較実験をそれぞれ行った。その結果、①PCの性能差での認識精度の差は認められなかったが、音声認識ソフトウェアの動作が重くなって音声認識が停止する現象は回避できるようになった。②マイクの実験では、無線接続を行った場合の認識率が極端に低く、有線マイクの認識率が高いことが明らかになった。以上の結果をもとにした発表を北見工業大学で行われた「PCカンファレンス2015」にて行った。2015年度後期には、教職員サポーターである皆川先生が開講している「ウェブデザイン論」で継続的な実験を行った。内容は以下の通りである。①Yosemite-Xの音声認識機能②iptalk+amivoice③UDトークの3種類のソフトウェアについて実験を行った。実験により、①の認識精度は低く、修正作業が不可能である②はソフトの連携に不具合が多かった。③は認識率が高く、修正と連携に優れていた。その後行ったUDトークを使っでの実験より、①字幕情報が正確である②少ない支援者での情報保障が可能である③支援者に熟練度を要求しない。ということが検証され、音声テイクを実用する意義を確認できた。導入にあたって、UDトークの使用法、接続方法を記載したマニュアルを作成し、それを実演したビデオを収録した。次年度以降は、これをもとにしてPCテイクを音声テイクに置き換える活動を行っていく予定である。
【採択金額318,714円／執行金額311,523円（自己負担分は除く）】



携帯用

2015年度
採択

アプリ開発プロジェクト

【プロジェクト報告】

本プロジェクトでは、本学が提供している情報に対して、統一的なアクセスをするためのアプリを開発することを目指した。2015年度に実現できた機能の状況についてまとめる。
Webスクレイピングサーバの構築：プロジェクト経費で購入したサーバを利用し、収集・構造化・再構成を行ったデータをアプリに受け渡すためのWebスクレイピングサーバの構築に成功した。このことでアプリが扱いやすい形式で情報を取得し、今後のアプリ開発を容易なものとし、効率化を図ることが可能になった。
アプリの開発環境の構築：メンバーそれぞれがアプリの開発環境を構築した。その上でWebスクレイピングサーバを介して、情報を取得し処理するアプリを作成した。
ビーコンの基本的機能の確認：プロジェクト経費で購入したビーコン端末を利用し、携帯情報端末の位置情報を取得できることを既存のアプリ上で確認した。
以上のように、開発を始めるにあたって必要な物品を購入できたことで、次年度以降の活動に繋がる基盤を構築することができた。プロジェクト活動初年度ということもあり、物品の購入や開発環境の構築など困難な点が多かった。しかし、それを克服することでようやく、本来のアプリで実現したい機能を開発する段階までたどり着くことができた。また、次年度以降の開発を効率的に行うことができるようになった。【採択金額497,124円／執行金額470,384円】

← 開発用のiPhoneと開発画面 ↑

アイデアや熱い想いに最高50万円を支援！

札幌学院大学 学生発案プロジェクト 募集

2015年度
2015年9月9日17時
募集締切

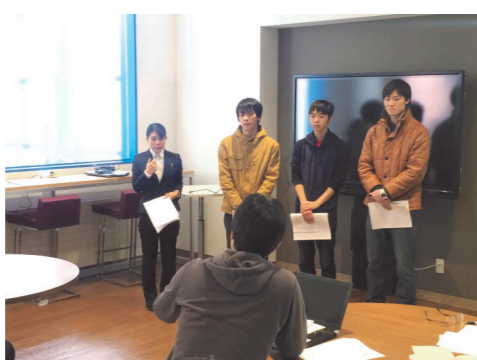
6月19(金)・23日(火)・25日(木)
12:30~13:00
Collaboration Center SPACE3にて
説明会開催

募集要項は、情報ポータルで公開中！
気になる人は、是非加わってみよう！

Collaboration Center
Supports Sapporo Gakuin University

プロジェクト報告会

2015年度のプロジェクト報告会は、2月26日にエントランスで開催しました。
各プロジェクトには、事前に「プロジェクト報告書」および「プロジェクト収支報告書」の提出を求めています。



報活動

コラボレーションセンターでは、充実した施設とセンターの取り組みを紹介する【Collaboration Centerオープン特設サイト】を2015年2月の開設当初から運営しております。

また、在学生、卒業生、保護者、地域・企業の皆様等へのセンターで開催されるイベントの情報提供や、施設内の様子などセンター関連情報の発信を行うために、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）のFacebookページ（開設当初より）、Twitterアカウント（2015年11月～）、LINE@アカウント（2016年2月～）を開設し、運営しています。

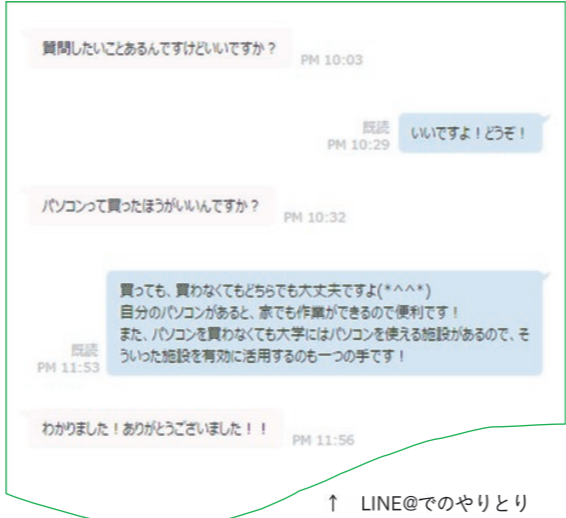
※コラボレーションセンターの運営しているSNSへのアクセスにつきましては、裏表紙にQRコードなどをつけておりますので、そちらでご確認ください。

なお、「LINE@」では、2月から4月中旬までの間、新入生の大学生活のスタートを応援するため、一人暮らしや大学生活のコツをタイムラインにて情報提供したり、トークで寄せられた新生活への疑問などに学生スタッフが中心となって対応する取り組みも行いました。



オープン特設サイト ↑
(<http://www.sgu.ac.jp/cc/>)

SNSによる情報発信だけでなく、アナログな紙媒体での広報活動も幅広く展開しました。学内3ヶ所にパンフレットラックを設置し、コラボレーションセンターの関連チラシなどの配布に努めました。渡り廊下などに設置の1ヶ所については、広報入試課との共用として運用をしています。



↑ LINE@でのやりとり



↑ 完成原稿での入稿によるオンデマンド印刷（ネット印刷）により、経費節減を追求。

学内3ヶ所にサインスタンドを設置し、「月報」やイベントポスターを掲示。

紙媒体での広報活動も幅広く展開しました。学内3ヶ所にパンフレットラックを設置し、コラボレーションセンターの関連チラシなどの配布に努めました。渡り廊下などに設置の1ヶ所については、広報入試課との共用として運用をしています。



C館2階 廊下

C館2階 エントランス

講義棟1-A・B館 渡り廊下

学生スタッフ



↑ 任命式では、鶴丸俊明学長より学生スタッフ一人一人に任命書が手渡されました。

SPACE2内の相談カウンターの対応のほか、アクティブラーニング教室の利用サポートや、大判プリンタ印刷も学生スタッフの業務です。



また、講義の合間や、講義の前後における勤務により、学業との両立が可能な（修学上の支障が生じないよう配慮された）「学内でのアルバイト」という、経済的事情により修学困難な学生への支援の一面もあります。



新年度にむけ、ひと目でわかるスタッフウェアを製作

学内ワークスタディ

様々なプロジェクトにおいて、学内外の様々な人たちと関わるがあるかと思えます。

ということで、名刺。↓



テーブルゲームプロジェクト



学生スタッフからの提案により、テーブルゲームを通じて普段あまり関わることのない、他学部他学科他学年の人たちと交流することを目的とした学生交流企画を開催しました。

それが「テーブルゲームプロジェクト」です。イベント当日は、学生スタッフが丁寧にルール説明を行いますので、ゲームを知らない学生も気軽に参加していました。



↑ スタッフミーティングの様子



ピアサポート

コラボレーションセンターの中期計画および年次計画に基づき、ピアサポートによる学生同士の学び合いによる「学生がともに育つ相乗効果」の場を提供するため、SPACE2の相談カウンターにおける、「大学生活なんでも相談」を開始しました。

この「大学生活なんでも相談」では、学生スタッフが中心となり、ピアサポーターとして、相談カウンターに訪れた学生からの相談に、学生の視点からアドバイスをしたり、一緒に考えたりして、問題解決や不安解消の手伝いをするを目的としています。なお、このピアサポート業務の開始にあたり、人文学部人間科学科の二通論教授に講師を引き受けていただき、学生スタッフへの研修を行いました。研修内容は、ピアサポート業務の理解や、ピアサポートを行うにあたり必要となるコミュニケーション能力の向上を図るトレーニングです。

また、相談内容については、相談記録として記録し、学生スタッフおよびコラボレーションセンター所員、担当事務局で情報を共有し、コラボレーションセンター所員、担当事務局は内容に応じて学生スタッフのサポートを行うこととし、利用者にも相談内容については関係教職員と共有することを掲示などであらかじめ周知することとしました。



↑ ピアサポート業務研修の様子。講師は、人文学部人間科学科の二通論教授（写真左下）

メディア掲載情報

放送局：北海道文化放送（uhb）
放送日時：2015年2月22日 6：15～
番組名：「ビジネスフラッシュ」

『北海道新聞』（江別版）2015年2月5日朝刊
「学部を超え語り学ぼう 札学院大に多目的空間」

『教育学術新聞』2015年8月19日
「コラボレーションセンター開設記念 札幌学院大学が講演会」

『教育学術新聞』2016年1月27日
「謎解きゲームのイベント 札幌学院大 キャンパスを使って開催」

『まんまる新聞』2016年1月29日号
「札学院大で謎解きゲーム」

『北海道新聞』（江別版）2016年2月4日朝刊
「6日、札幌学院大でクイズゲーム 謎を解き脱出できるか」



← 学生スタッフによるFacebookページによる広報活動

札幌学院大学Collaboration Centerさんが写真2件を追加しました。 1月20日

あけましておめでとうございます。学生スタッフ報告です。お正月に帰国した学生スタッフのみなさん、お正月明けの授業がスタートしました。いよいよ学期の始まりです。最後まで気を抜かず頑張りましょう。

【SPACE2】のプロジェクトチームでは学生国際交流委員会の方々が、早速来週より開始される「日本語教育・文化体験プログラム（仮）」に向けて、準備を進めています。今年度のプログラムでは、オーストラリア・台湾・韓国より来日した3名の学生が本学に滞在し、様々なアクティビティや日常生活を通して日本文化を学びます。

お知らせした学生が「札幌学院大に来て良かった」と感じるプログラムになるよう、大学一丸となって頑張りたいですね。
(Collaboration Center学生スタッフ 報告)



札幌学院大学Collaboration Centerさんが写真2件を追加しました。 2015年12月10日

【SPACE2 PROJECT LOUNGE】にて、経済学部の土屋さんと佐々木さん（仮）のみなさんが、12日に到着して開催される「SCAN(北海道学生研究会)が開催する『企業研究発表会』の発表準備が完了しました。本学を拠点に発表、準備も最終段階に入っていることもあり、両方のゼミも日々精進で発表の準備を進めています。両方のゼミとも準備が整った状態で発表できるように頑張ってください！ゼミの発表準備、話し合いなどを行う際には是非「SPACE2 PROJECT LOUNGE」をご利用ください！
(Collaboration Center学生スタッフ 工藤航)





<https://www.facebook.com/SGUCollaborationCenter>



https://twitter.com/SGU_Collabo



@spv4053o

